

長野県立中学校・高等学校
新しい「学びの指標」(案)

令和2年7月
長野県教育委員会

長野県立中学校・高等学校の新しい「学びの指標」(案) の考え方(理念)について

長野県教育委員会

長野県教育委員会では、令和元年(2019年)10月に、外部有識者や県内中・高等学校校長等からなる「学びの指標検討会」を立ち上げ、学びの改革の一環として、生徒の「学びの成果」を適切に測定するための指標について検討してきました。

これまで、学校における生徒の「学びの成果」は、主に、各教科・科目の試験の点数・順位や評定、模擬試験の偏差値や就職・進学先などによって測られてきました。学校における教育活動の評価も、多くは、外部試験の度数分布や平均点、進路結果などに基づいて行われてきました。しかし、これらは基本的には他との比較による相対的な評価、個よりも全体を見る評価であり、結果として、高い点数を取ることや、より偏差値の高い学校に入学することなどが目的化してしまう事態を生み出してきました。また、必ずしもすべての生徒の学びによる変容や成長が評価されてはいないため、生徒の次の取組へのモチベーションになり得ていない面がありました。さらには、相対的な評価の中で、努力が「成果」として反映されないことや周囲の期待に応えられないことなどに悩み、自己肯定感を喪失したり、苦しんだりする生徒がいたことも事実です。

変化が激しく、正解がない時代を迎え、一人ひとりのいのちや人権、個性が尊重されることがますます大切になっています。

そのような中であって、学校においても、これまで以上に一人ひとりの生徒の存在やいのちと、そこから立ち上がる学びや意欲を重視していくことが大事だと考えています。「学びの成果」についても、これまでの評価だけでなく、生徒一人ひとりの変容や成長そのものに着目することを一層大切にしたいと考え、新しい「学びの指標」を導入することとしました。新しい「学びの指標」とは、他との相対性を排しつつ、生徒個々の状態を測定して、過去と現在の状態を比較することにより、その変容や成長を認めるものであり、すべての生徒がすべての面において同じ到達度を達成することを目標にする必要はなく、個人差や凸凹があってもよい、と考えています。

このような視座を共有することにより、すべての生徒が学ぶことの意義や喜びを「自分ごと」として実感し、生き生きと学ぶこと、そして、学校がすべての生徒・教員にとって、居心地のよい、活力に満ちた学びの空間になっていくことを願っています。

新しい学習指導要領における学習評価においても、目標に準拠した評価(絶対評価)の一層の実質化や個人のよい点等を評価する「個人内評価」を活用することとされています。今後は、これらを積極的に推進することと並行して、この新しい「学びの指標」についても、学校の教職員・生徒・保護者や県内の企業・大学関係者等県民のみなさんと、対話を通じて理念の共有を図りながら、今回示した例を参考に、各学校が、理念をよりよい形で具現化する研究や創造的な取組を継続することにより、一人ひとりのいのちや人権、努力や個性等が真に大切にされる学校・社会を実現していきたいと考えています。

新しい「学びの指標」を導入します！

これまで

〈生徒〉

- ・試験の点数・順位・評定
- ・模擬試験の偏差値
- ・就職・進学先

〈学校の教育活動〉

- ・外部試験の度数分布や平均点
- ・進路結果

全体に焦点

他者との比較

他校との比較

→結果として

「より高い点数を」
「より偏差値の高い大学へ」

これから

これまでの学びの評価

+ に加え

〈生徒〉 〈学校の教育活動〉

・ 新しい「学びの指標」による「評価」

※ここでいう「評価」とは、他との相対性を排しつつ、生徒個々の状態を測定して、過去と現在の状態を比較することにより、その変容や成長を認めること

個に焦点

個人の過去と現在との比較

→生徒個々の

「変容」や「成長」を重視
(個人差・凸凹を受容)

新しい「学びの指標」とは

新しい
「学びの指標」

① 考え方(理念)

② 具体的な「評価」

(「評価」項目・「評価」内容)

新しい「学びの指標」が目指すもの

学校を



すべての生徒が学ぶことの意義や喜びを実感でき、
生き生きと学ぶことができる空間に

それにより

生徒個人のWell-being* と 社会のWell-being の実現

個人のWell-beingの実現
社会のWell-beingの実現

〈Well-being〉
Well-beingとは、一人ひとりが心身の潜在能力を発揮し、人生の意義を感じ、周囲の人との関係のなかでいきいきと活動している状態のことであり、近年OECDやユネスコでも教育の達成目標として重視している。

「学びの指標」を活用した生徒個々の成長と学校の教育活動の振り返り

長野県立中学校・高等学校 〈つきたい力〉

OECDラーニング・コンパス (学びの羅針盤)2030 [より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー]	中央教育審議会答申(平成28年12月) [育成を目指す資質・能力の三つの柱]	長野県教育委員会 高校改革 ~夢に挑戦する学び~ 実施方針 [高校教育が目指すべき方向性]
① 新たな価値を創造する力	① 何を理解しているか、何ができるか (生きて働く「知識・技能」の習得)	① 自ら立てた問いに対し、チームとして協働しながら解を見つけ、新しい価値を主体的に創造していくことができる資質・能力の育成。
② 責任ある行動をとる力	② 理解していること・できることをどう使うか (未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)	② 「一度しかない人生を自分はどう生きたいか」という自分の人生を構想する力(キャリアデザイン力)の育成。
③ 対立やジレンマに対処する力	③ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか (学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)	③ 信州に根ざした確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野、資質・能力の育成。

長野県立中学校・高等学校 〈目指す学びと学びを実現するための環境〉

- ① 生徒一人ひとりが安心して「探究的な学び」をすすめることができる学校
(安心して自身の意見を言える環境)
- ② 「探究的な学び」(主体的・対話的で深い学び)を取り入れた授業や教育活動
- ③ 信州学等を含む地域資源を有効活用した課題解決学習や、キャリア教育の視点から自己のあり方や生き方、社会との関わりについて考えを深める学びの充実
- ④ 学習・生活環境、ICT環境の整備と充実

長野県〈学びの風土〉

信州教育

- 知・徳・体の調和のとれた人間教育を目指す「全人教育」
- 学びの主体者である生徒を中心に据えた教育
(子どもが本来持っている主体性や学ぶ意欲への信頼を根幹にした教育)

長野県の歴史と県民性

- 過酷な自然環境に打ち勝つために果敢に自己革新を重ね、一人ひとりが常に向上心を持って主体的に学習活動に取り組んできた歴史
- 自ら学び、自ら考え、自ら行動を起こし、自ら主体的に取り組む風土と県民性

長野県立中学校・高等学校 〈「評価」項目等例〉

・全県共通項目
+
・学校独自項目

表中の項目について
○「評価」項目の例…生徒の学びの成果を、「育成を目指す資質・能力の三つの柱」に照らして測る際の「評価」項目例
○「評価」内容(質問)例…「評価」項目を測る際の内容(質問)例
※これらはいずれも例示です。今後、各校において、「学びの指標」の考え方(理念)を踏まえて、「3つの方針」や自校の特色・状況等に応じた適切な項目及び内容が設定されます。
○「評価」方法…個人の学力の伸びがわかる「項目反応理論」を用いたテストや課題を活用したり、現在、各校で実施している学校自己評価の質問項目に付け加えて調査したりすることを想定していますが、今後も、より適切な「評価」方法について、各校で検討・工夫がなされていきます。

三つの柱	「評価」項目の例	全県共通項目	「評価」内容(質問)例	「評価」方法	
知識・技能 思考力・判断力・表現力等	リテラシー	読解力・表現力	テキストから必要な情報を抽出し、正しく読み取ることができるか 目的や場面、状況等に応じて自分の考えを適切な方法で表現することができるか	テスト・課題・各種検定・学びの基礎診断等	
		科学的考察力	自然界や社会の事象について、科学的に考察し、結論を導き出すことができるか		
		情報活用能力	情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりすることができるか		
		言語コミュニケーション能力	必要とする場面で、日本語や必要な外国語を用いてコミュニケーションをすることができるか		
	学びに向かう力・人間性等	学ぶ力・学びを支える力	探究力・論理的思考力		学んだことをもとに、事象を論理的にさらに深く掘り下げて考えることができるか
			批判的思考力(クリティカルシンキング)		見聞きした事象や、知り得た情報を鵜呑みにせず、批判的に考察することができるか
		創造力・発想力	●既存のものを新しい視点から見直し、新たな考えを持ったり、新たな価値観を提示したりすることができるか		
		「自分軸」の確立	●○自分が持つ価値観や考えなどを整理し、自分の言葉で説明することができるか		
		自己調整力	目標の達成に向けて、自分の意識や行動を変化(成長)させようとすることができるか		
		協働性・共生力	物事を成し遂げようとするとき、自分と異なる意見も受け入れながら、他者と協働して進めることができるか		
社会性	回復力(レジリエンス)	上手いかなかったことを振り返り、次に活かそうとするか 上手いかないときに、方法を変えて再び挑戦しようとするか			
	学びの有用感	学ぶことには意味があると思うか 今学んでいることは、将来の仕事や人生において役に立つと思うか			
	キャリアデザイン力(シチズンシップ)	キャリアデザイン力(シチズンシップ)	将来の夢を持っているか ●○社会と自分とのつながりや関係を意識しながら、自分の将来について考えているか		
		社会貢献への能動性	自分は責任がある社会の一員だと思うか ●○社会をよりよくするため、社会課題の解決にかかわりたいと思うか 社会課題について、家族や友人など周りの人と積極的に話したいと思うか		
自他を認める力	自己肯定感	●○自分を一人の人間として価値があると思うか 努力すればある程度のことはできるようになると思うか			
	自己効力感	自分は社会を変えられるかもしれないと思うか			
	共感力と寛容性	他者の立場に立って、他者の感情や経験などを思いやろうとしているか ●自分と異なる考えや価値について、その真意を想像し、尊重することができるか			
健康	健康	自分を律して、健康であるための習慣をつくることができているか			
幸福感	幸福感	学校生活は充実しているか 自分は幸せだと感じるか			

※次の3種類の項目については、すべての県立中学校・高等学校において、共通に測定していく項目として位置付ける。

●学びの共通集計項目:県全体の学びの充実度を検証

☆進路実現度集計項目:従来の「国公立大学進学率」などとは異なる指標として、県全体の進路指導や進路実現の充実度を検証

○第3次教育振興基本計画成果指標項目:県の教育施策の成果目標に対する達成状況を検証

各学校における、新しい「学びの指標」の実際の運用にあたって

1 〈「評価」項目・「評価」内容〉の策定の観点

新しい「学びの指標」の〈「評価」項目・「評価」内容〉は、考え方（理念）や各校の「3つの方針」等に基づき、次の2つの観点を踏まえて策定します。

① 生徒にとって

一人ひとりが、学校における学びについて、他者との比較を通してではなく、自分自身の成長そのものを振り返り、見つめることで、新たな目標に向けて学び続ける意志と意欲をもてるような指標であるか。

② 教員にとって

一人ひとりが、自校の教育内容や自分の指導について、生徒個人の幸福と社会の幸福の実現につながる資質・能力を生徒に育てているかを確認し、その改善やさらなる充実につなげるための指標であるか。

2 新しい「学びの指標」の「評価」結果の活用方法

学校における活用方法の例として、現時点では、次のものを想定しています。

〈学校〉

○生徒「個人」の「評価」結果

・個人面談での活用

（例）伸びている項目に着目して「評価」を行うとともに、教員の「評価」が高く生徒自身の「評価」が低いといった、「評価」に乖離がある項目に関する対話。

・三者面談での活用

（例）生徒が学びの成果をプレゼンし、学びの前後での生徒の変容・成長を三者で確認。

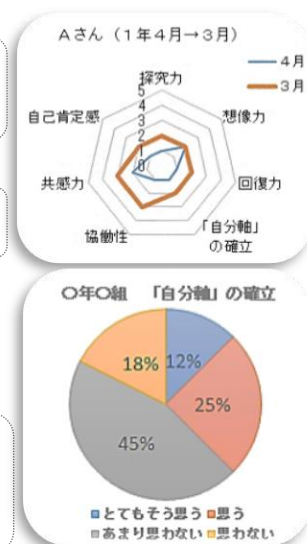
・通知票等へ記載

（例）具体的な生徒の変容・成長を記載。

○クラス等「集団」の「評価」結果

・学年会や職員会での共有

（例）学年や学校全体、部活動等の「集団」について、伸びている項目に着目して「評価」を行い、さらなる学びの充実に向けて検討。また、教員の「評価」が高く集団を構成している生徒自身の「評価」が低いといった、「評価」に乖離がある場合に、原因や改善に向けた指導について検討・研究。



〈生徒〉

○他者との比較ではなく、自身の過去と現在の比較により自己を見つめ、成長を確認。

なお、「評価」結果の活用については、今後、県内の様々な方との対話や、モデル校における活用方法の研究成果等を参考にしながら、各学校で考え方（理念）を踏まえたよりよい「評価」の活用方法を常に研究し、改善していくとともに、例えば、新学習指導要領における各教科・科目等の学習評価に導入できないかといったことも含めて、教育活動全般における新しい「評価」の活用も検討していきます。

3 新しい「学びの指標」の導入後の期待される変化


学びの成果に対して新しい「評価」の考え方（理念）が導入されることで、生徒に対する相対的な見方や、個よりは全体に焦点をあてた評価が主となっている現状から脱却し、様々な場面における「評価」が、一人ひとりの成長を丁寧に認めていくものになっていくことを期待しています。そのことにより、生徒は自分の変容を、他者との比較ではなく、自分の確かな成長として捉えることができ、安心感や次の学びへの意欲につながると考えます。また、学校においては、この「学びの指標」が、各校の教育活動の一層の充実に向けて教職員間で恒常的に議論がなされるきっかけとなることを期待したいと思います。



4 新しい「学びの指標」導入に向けたスケジュール

年 度	月	長野県教育委員会	県立中学校・高等学校
令和元年度 (2019)		○「学びの指標検討会」における検討	
令和2年度 (2020)	7	<p>「学びの指標」(案)の公表 (定例会)</p> <p>・対話集会(生徒・保護者・教育界・産業界等)の実施</p> <p>・大学等との懇談</p> <p>指標の理念を共有しながら、一人の生徒も取り残すことなく、すべての生徒の成長を見守り、支える社会の実現を目指して、生徒を取り巻く様々な人と対話を重ねます。</p>	<p>○モデル校に導入 く「評価」項目・「評価」内容)の設定、「評価」方法・活用方法の工夫</p> <p>○各校独自のく「評価」項目・「評価」内容)の検討</p>
	12	<p>「学びの指標」の公表 (全県共通項目の確定)</p>	<p>各校において、「3つの方針」や自校の特色・状況等に応じて適切に定めます。</p>
令和3年度 (2021)	4		<p>「学びの指標」の導入 生徒・保護者等との共有</p>
	3	<p>全県共通項目に係る調査・集計</p>	<p>「学びの指標」による「評価」 (年度当初) (全学年)</p> <p>「学びの指標」による「評価」 (年度末) (全学年)</p> <p>○次年度のく「評価」項目・「評価」内容)の検討</p> <p>自校の教育活動を振り返る中で、必要に応じて見直していきます。</p>
令和4年度 (2022) 以降	4	<p>全県共通項目に係る集計結果公表</p>	<p>「学びの指標」の理念・項目等を生徒・保護者等と共有</p> <p>「学びの指標」による「評価」 (年度当初) (1学年)</p>
	3	<p>全県共通項目に係る調査・集計</p>	<p>「学びの指標」による「評価」 (年度末) (全学年)</p> <p>○次年度のく「評価」項目・「評価」内容)の検討</p>



学び応援キャラクター「信州なび助」
©長野県教育委員会
デザイン制作=高校生× 同学園トータルデザインアカデミー

学びの指標検討会（令和元年10月～令和2年3月）

小村 俊平	日本イノベーション教育ネットワーク（協力OECD）事務局長
丸山 将一	エムケー精工株式会社代表取締役社長
藤森 裕治	信州大学学術研究院教育学系教授
北澤 嘉孝	長野市立東部中学校長
上野 敏	長野工業高等学校長
岩田 学	篠ノ井高等学校長
廣田 昌彦	上田高等学校長
内堀 繁利	高校教育課高校改革推進参与
佐倉 俊	学びの改革支援課参事兼課長
齊藤 則章	学びの改革支援課教育幹兼高校教育指導係長
曾根原好彦	学びの改革支援課義務教育指導係長
山崎 裕史	高校教育課管理係主幹指導主事
小川 幸司	学びの改革支援課高校教育指導係主幹指導主事
小山田佳代	学びの改革支援課高校教育指導係主任指導主事

（敬称略）